

西福寺寺報 **道** - michi -
2025 (令和 7) 年 秋永代経号

おらあ、墓の下にじっとしてはおらんでのお
(妙好人 讃岐の庄松さん)



秋 季 永 代 経 法 座

10 月 20 日(月) 昼席 (13:00~15:30ころ)
夜席 (19:30~21:00ころ)
21 日(火) 朝席 (09:00~11:30ころ)
昼席 (13:00~15:30ころ)

ご法話	浄土三部経に聞く
講 師	桑門真昭さん (中区大手町 常念寺)  64 歳 龍谷大学真宗学博士後期課程満期終了 真宗大谷派 擬講 真宗大谷派山陽四国教区真宗学院講師

秋季永代経法座 YouTube 配信 URL

20 日昼席 20 日夜席 21 日朝席 21 日昼席



左の QR コードを読み込み、YouTube に
リンクすると、すぐにお聴聞することが
できます。

浄土真宗本願寺派
(本山：西本願寺)
多聞山

西 福 寺

〒739-0152
東広島市八本松町吉川 153-2
TEL: 082-429-1038
FAX: 082-429-1398
Email: tamon.saifukuji@kokeshoja.jp

仏教婦人会月例法話会 (お寄り講 13:30~15:00)

10 月 10 日 (金)
西福寺庫裏 (本郷担当)
11 月お休み
12 月 17 日 (仏婦報恩講と併催)
来年 1 月未定 (市条担当)

お経会 (大人の寺子屋) (毎月第 3 木曜日 13:30~15:00)

『正信念仏偈』を読む
10 月 16 日
11 月 20 日
12 月お休み
来年 1 月お休み

オアシス法話会 (毎月第 4 木曜日 13:30~15:00)

『不安に寄り添う』
10 月 9 日 (第 2 木曜日)
11 月 13 日 (第 2 木曜日)
12 月お休み
来年 1 月お休み

土 曜 学 校 (毎月第 2 土曜日 9:00~10:00)

10 月 11 日
11 月 8 日
12 月 13 日
土曜学校ほうおんこう
来年 1 月 10 日

Contents

- 2 3 お寺だより 4 5 お知らせ
6 浄土真宗のこぼれ入門 広辞苑編
7 浄土真宗のこぼれ入門 『正信念仏偈』

寺報を読み終わった後はしまい込まないで、ご家族みなでご覧ください。
子どもさん、お孫さん世帯など用に 2 部以上必要な方は、お知らせください。

※題字「道」は本願寺蔵『顕浄土真実教行証文類』総序より

お寺だより
法座

9月9・10日

秋季彼岸会法座

【ご法話】「ご和讃をいただき
(七高僧の教え)」深水顕
真さん (三次市上志和地町
専正寺)【9日昼】参拝者7名 お勤
め『三奉請』『表白』『正信
念仏偈』

【9日夜】参拝者8名 お勤

め『しんじんのうた』

【10日朝】参拝者6名 お勤

め『正信念仏偈』

【10日昼】参拝者12名 お勤

め『正信念仏偈』

【仏教讃歌】「み仏にいただき
れて」

【ご法話】10日昼席

うちの犬は、今から7年
前、11月の報恩講で忙しい
時、境内にいた迷い犬でし
た。「ももちゃん」という名
前をつけて、5年間うちで
飼いました。2年前の1月
1日、除夜の鐘を聞いて翌
朝亡くなりました。

よく相談を受けるのが
「飼っていたペットは、一体
どうなったんでしょうか？」

ということですが、私はちゅ
うちょなく答えるんです。
「お浄土に参ったから大丈夫
ですよ。阿弥陀さまの力で
仏さまにならしてもらった
から」って。正信偈の中に
「一切群生蒙光照」っていう
言葉が出てくるでしょう。
生きとし生けるものすべて
を救うというのが、阿弥陀
さまの願いだからです。
讃題にいただいた「如来
のよび声」の一節に、「阿弥
陀如来は、すべての者を救
いたいと願われ、南無阿弥
陀仏の名号を完成された。
名号は、如来の智慧と慈悲
を円かに備えた救いのはた
らきそのものである。親鸞
聖人は、この如来の名号を
「本願招喚の勅命なり」と仰
せになる。南無阿弥陀仏は
『必ず救う。われにまかせよ』
との阿弥陀如来のよび声で
ある」とあります。

念仏なんです。
世羅郡のある仏教婦人会
研修会で質問を受けました。
「実は私は自分の主人を亡く
しました。それ以来、毎朝
毎晩お念仏を称え、正信偈
を読ませてもらっています。
このお念仏や正信偈という
のは、何回読んだら、主人
は喜んでくれるんでしょう
か？」という問いかけでし
た。気持ちよくわかるん
ですが、「何回やれば、何
回すれば喜んでくれるん
でしょうか？」って話は、自
力の考え方で、浄土真宗と
はちよつと違うという気が
するんです。

学生時代、インドのダラ
ムサラに3か月間滞在させ
てもらったことがあります。
そこでたくさんさんのチベッ
ト人の巡礼の人と会いました。
摩尼車を回しながら、「オ
ン・マニ・ペメ・フム」を
唱え、ひたすらお寺の周り
を回っているんです。「何回
回したら仏になれるんです
か？」って聞いてみたら「一
生涯やっても無理だと思ひ
ますよ」って答えられまし
た。親鸞聖人は、「いづれ
の行も、および難き身なれ
ば」と言われます。行がで
きないわが身であるよ。で
も、仏さまは見返りを求め
ていないはずですよ。こちら
からはたらきかけなくても、
向こうから利益をくださる、
それが本当の仏さまなんです。
これが他力の救いです。
天親菩薩は、七高僧の2
番目で、お釈迦さまの仏教
を哲学的に整理し、理論づ
けていった方です。親鸞聖
人は、天親菩薩を非常に尊
敬しておられ、自分の名前
にその字をいただかれまし
た。天親菩薩は『浄土論』
という本を造られました。
正信偈では「天親菩薩造論
説 歸命無碍光如来」とあ
ります。難しいご文ですが、
「最後にはお念仏しかありま
せんよ」っていうのが結論
です。高僧和讃の天親讃に
は「天親論主は一心に無
碍光に歸命す 本願力に乗
ずれば 報土にいたるとの
べたまう」とあります。「一
心」というのは、阿弥陀さ
まからいただく信心の心で
す。私の心じゃありません。
「願作仏の心はこれ 度衆生
のこころなり 度衆生の心
はこれ 利他真実の信心な
り」

YouTube saifukuji_inweb 最新情報

チャンネル登録者数	647
チャンネル視聴回数	117,014 回
総再生時間	19,173.9 時間

秋季彼岸会法座アーカイブ

9/9 昼席		9/9 夜席		9/10 朝席		9/10 昼席	
--------	--	--------	--	---------	--	---------	--

(2025/09/25 現在)

秋季永代経法座次第

一、お勤め

20日昼席「仏説阿弥陀経」

夜席「仏説阿弥陀経」

21日朝席「正信念仏偈」

昼席「正信念仏偈」

一、「浄土真宗の教章(私の歩
む道)」より「教義」「生活」

「宗門」

一、「聴聞の心得」

一、「ご法話前半(約30分)」

(休憩10分)

一、仏教讃歌

『みほとけは』

一、「ご法話後半(約30分)」

※夜席は約40分(休憩なし)

一、「浄土真宗の救いのよろこび」

一、「恩徳讃」

り」。私の中にある仏になる心は、阿弥陀さまの「みんなを救いたい」という願いがもとになっています。

浄土真宗の根幹は、阿弥陀さまの救いの願い、本願というところにあります。しかし、本願は、なかなか目で見えるものではない。だからこそ、阿弥陀さまはそれを名号という形、「南無阿弥陀仏」という六字にしてくれた。それが私の中に届いたとき信心になって、信心が今度は口からあふれてきたときには、念仏になっていく。「本願」「名号」「信心」「念仏」これは全部がまとめて一心、ひとつの心です。私が称えている念仏だけど、「お念仏」という。私がいただいた信心だけど、「ご信心」という。なぜならば、私の中に阿弥陀さまからいただいたものだからです。

私のいとこの話です。いとこが新婚旅行中、お父さんが急に亡くなりました。箱根の旅館で連絡を受けて、急いで帰りましたが、帰った時は夕方5時過ぎでした。最初は何が起こったのか

わからなかった。「つい何日前にあれほどにこやかに送ってくれたのに、なんで今こんなになってるんだらうか？」と。しばらくボーっとしながら、ずっと父のご遺体の前で座っていた。「最後の最後、何ができたか。自分にできることはひとつしかなかった。最後の最後には、念仏称えるしかなかった」と言いました。「お念仏があつてよかった」って。

私たちは人生を歩んでいくときにさまざまな苦難があります。生老病死の「いのち」を抱える限りは、必ず死んでいかないといけません。人生というものは、あらゆる苦悩に満ちあふれているかもしれない。しかし、天親菩薩はそれを乗り越える道を教えてくれるんです。「最後の最後、しんどい、苦しい。でも、最後にはお浄土があるから、最後にはお念仏があるから、さあ、一緒に、これが天親菩薩の教えです。」

親鸞聖人は「念仏のみぞまことにておわします」と言ってくれた。われわれの

先輩は「お念仏が最後にあるんだよ」って教えてくれた。「大丈夫だから、最後には念仏があるから、最後にはお浄土があるから」、この信心をいただきながら、またこうやってお寺に参っていたきながら、しっかりと確認していただければと思っています。

仏教婦人会

9月22日
月例法話会

【場所】西福寺庫裏(東郷版)
【参加者】18名

【お勤め】『正信念仏偈』『御文章』『御袖章』

【ご法話】『なるほど浄土真宗』より「願われている喜び」

お経会(大人の寺子屋)

9月18日

【参加者】4名

【お勤め】『正信念仏偈』『正像末和讃』『仏智疑惑のつみにより 懈慢辺地にとまるなり 疑惑のつみのふかきゆへ 年歳劫数をふるとく』より6首 『御文章』

【ご法話】『正信念仏偈』『建らがない版』127ページ

オアシス法話会

9月25日

【参加者】7名

【お勤め】『正信念仏偈』『浄土和讃』『道光明朗超絶せり 清浄光仏とまうすなり』

ひとたび光照かふるもの業垢をのぞき解脱をう」より6首 『御文章』『出家発心章』(『御文章 ひらがな版』14ページ)

【ご法話】仏のはたらき名を称えるところに



土曜学校

9月20日

【参加者】9名

【お勤め】「しんじんのうた(2)」

【絵本】『うわのそらいおん』作・絵／ふくながじゅんぺい(金の星社)『月夜のバス』作／杉みき子 絵／黒井健(偕成社)

安芸教区・東広島組近況

(本願寺派安芸教区)

8月31・9月17日 見真編集会議

9月13日 布教団「聞法の集い」

9月16日 教区DX推進部会

10月30・31日 布教団後期研修会

11月11日 教区門徒総代会研修会

11月18日 教区情報発信に関する研修会

(安芸教区東広島組)

9月7日 組若婦人研修会

【場所】浄福寺(高屋堀)

10月17日 組講習会

【場所】教正寺(西条町助実)

10月24日 組門徒総代会総会研修会

【場所】昭玄寺(西条町寺家)

住職出講

9月30日

迦羅羅塾 初代代表藤田徹文先生追悼法要 (三原市久井町 光徳寺)

主催勉強会・研修会

10月4日 視聴覚伝道研究会

第12回布教研究大会 (京都市 西本願寺聞法会館)

10月28日 第119回聞法の会 (広島市 広島別院共命ホール)

12月18日 第120回聞法の会 (広島市 広島別院共命ホール)

秋の門信徒総追弔会
(秋季永代経法座兼修)

10月20日(月)

昼の部 (13:00)

夜の部 (19:30)

2025 (令和7) 年3月から8月までの間に、先にお浄土に往生された方々のご遺族に、ご案内状を出させていただきました。ご家族、ご親戚でお誘い合わせてご参詣ください。昼、夜どちらにお参りいただいても構いません。

「永代経志」とは、故人の残し伝えてくださった「たみ教えを聴聞する「聞法道場」であるお寺が、永代にわたり存続することを願って収める志のことです。故人を永代にわたり追善供養してもらうためではありません。

今を生きる私たちが、先人から受け継いだ教えに出遇うための縁を、後世に伝えるためのお供えです。多くは先人の遺志を継いでお納めされますが、事前にお供えされても構いません。

永

代経とは永代にわたりお経が残り、仏法が伝わっていくということです。

俱会一处

浄土での再会を期して

生前のご苦勞を偲び
謹んで哀悼の意を表します。

永代経御懇志

様 亡母の志を継いで
様 亡叔父の志を継いで

ご懇意、衷心より感謝申しあげます。
これからも、お念仏ご相續ください。

感謝

寺報発行への志 1件
いつもお心遣いいただき、有難うございます。

報恩講は、浄土真宗門徒にとつて最も大切な法座です。お内仏でも必ずお勤めいたしましょう。

報恩講は、浄土真宗を開かれた、宗祖親鸞聖人のご命日を、ご縁として営まれる法座です。

報恩講のご自宅へのお参りについて

吉川・原地区のご門徒の方は、

ご希望の日時をお寺にご連絡ください。調整しお参りいたします。前記以外の地区の方は、お寺からお参りする日時をお知らせいたします。ご都合が悪い場合は変更いたしますので、ご連絡ください。

準備は、普段のご法事の時と同じです。ただし、「朱(赤)色」のろうそくをご用意ください。お勤めは約30分です。

西福寺作品展

出展作品



募集中

みなさまのすてきな作品をお待ちしております。

10月20日(月) 21日(火)

【展示場所】西福寺庫裏

【出展資格】この寺報をご覧になった方ならどなたでも。

【出展作品】オリジナルの作品なら、絵画・書・写真・器・置物・短歌・俳句・川柳・詩・編み物・着物リホーム・ちぎり絵、などなんでも可。お一人様何点出展していただいても構いません。

【出展方法】作品をお寺にお持ちいただき、申し込み用紙に必要事項を記入してください。

【出展受付】10月18日(土) 9:00～16:00

ペットボトルキャップをワクチンに

安芸教区では、ペットボトルキャップを回収し、世界の子どもたちにワクチンを届ける運動をしています。みなさまもぜひ、洗浄済みのキャップをお寺に持ってきてください。住職が広島別院に届けます。ご協力よろしくお願いいたします。





よろしく
お願い
いたします。

YouTube チャンネル「saifukuji_inweb」

西福寺の法座は YouTube でいつでもお聴聞できます。



こんな方におすすめです！

- 法座にお参りしたいけれど、体調がすぐれず、長時間座ってられない。
- ご法話をもう一度ゆっくりお聴聞したい。
- ご法話に興味があるが、なかなかお寺にお参りできない。
- 最近、お寺や仏教のことが気になってきた。

見方はかんたん！

- ①スマートフォン・タブレット・パソコンから
- ②「YouTube（ユーチューブ）」を開く
- ③検索で「saifukuji_inweb」または「多聞山西福寺」と入力
- ④チャンネル登録をすると、更新情報が届きます

チャンネルでは ご法座を配信中！

- ご法話だけでなく、お勤めも LIVE 配信します。
- LIVE 配信中的法座は、**LIVE** マークが目印です。
- 過去のご法座もいつでもお聴聞できます。

お手伝いします！

「見方がわからない」「スマホでうまく開けない」そんなときは、お気軽にご相談ください。一緒にご案内いたします。

※スマートフォンでのお聴聞は、通話料とは別のデータ通信料が必要となります。料金プランによっては高額になる場合がありますので、ご注意ください。

右の QR コードから直接チャンネルを開くことができます。



「西福寺はちす墓苑」新規利用者募集（門信徒（西福寺とご縁のある方）限定）

● 新規区画永代使用 30 万円（1 区画 1m × 2m）

※永代管理費、墓石代別

● 門信徒合同墓

永代納骨 ひとり 5 万円（4 人以上は 20 万円）

※納骨後は遺骨のお返しはできません。

一時預かり ひとり 1 万円（年間）

※最長 32 年間。



詳しいご相談、お申し込みはお寺までご連絡ください。

浄土真宗のことば入門 広辞苑編

き・く【聞く・聴く】他五

①言語・声・音などに対し、聴覚器官が反応を示し活動する。

①耳で音・声を感じ取る。聴覚によって認識する。万葉集(5)「うぐひすの音・くなへに」。「鐘の音を・・く」

②人の言葉をうけいれて意義を認識する。聞き知る。万葉集(20)「君が上はさやかに・・きつ思ひしごとく」。源氏物語(帚木)「寝たりける声のしどけなき、いとよく似通ひたれば、いもうとと・・き給ひつ」。「講義を・・く」

③人を通じて間接的に知る。伝え聞く。古事記(下)「そらみつ日本の国に雁子産むと未だ・・かず」。「彼は結婚したと・・く」。「・・くところによると」

④聞き入れる。従う。許す。万葉集(3)「大君の任まけのまにまに・・くといふものそ」。「無理を・・いてもらう」

⑤よく聞いて処理する。読史余論「天下の事は後白河・・き給ひ信西いよいよ任用せらる」。「訴えを・・く」

⑥注意して耳にとめる。傾聴する。拾遺和歌集(雑)「松原ごしに鳴く鶴たずのあながながし・・く人なしに」。「注意を・・く」

⑦「訊く」とも書く。言葉をかけて答えや情報を求める。尋ねる。問う。源氏物語(夕顔)「忍び給へば、若君の上をだにえ・・かず」。「道を・・く」。「都合を・・く」。「己の胸に・・け」

②「利く」とも書く。物事をためし調べる。

①かぎ試みる。かぐ。浄瑠璃、浦島年代記「酒の香・・けば前後を忘るる」。「香こうを・・く」

②味わい試みる。狂言、伯母が酒「好い酒か悪い酒か私が・・いて見ずばなりますまい程に、一つ・・かせて下されい」

③あてて試みる。なぞらえる。準じる。「広さを柱に・・いて戸を作る」

広く一般には「聞」を使い、注意深く耳を傾ける場合に「聴」を使う。

きき・かわ・す【聞き交わす】：カハス 他五
互いに聞きあう。互いにたよりをする。源氏物語(早蕨)「御ありさまは絶えず・・し給ひけり」

『広辞苑第七版』

浄土真宗では「聞く」ということを大切にします。それは親鸞聖人が、法然聖人からお聞きになった教えを、丁寧に伝えていくくださっているからです。しかも、ただ聞いたことをそのまま残すのではなく、そのお言葉をわが身に聞き、たより、依りどころとしていく中で、さまざまな書物(お聖教)に伝えてくださっているのです。

もんそくしん 聞即信

浄土真宗における聞と信との関係のことで、聞くことがそのまま信心であり、聞のほかに信はないということ。第十八願成就文に「その名号を聞きて信心歓喜せんこと、乃至一念せん(聞其名号信心歓喜乃至一念)」とある中の「聞」と「信」について、親鸞は「信巻」に「聞といふは、衆生、仏願の生起本末を聞きて信心あることなし、これを聞といふなり、信心といふは、すな

はち本願力回向の信心なり」と述べ、また「念多念文意」に「聞其名号といふは、本願の名号をきくとのとまへるなり。きくといふは、本願をききて疑ふところなきを聞くといふなり。またきくといふは、信心をあらはす御のりなり。信心歓喜乃至一念といふは、信心は如来の御ちかひをききて疑ふところのなきなり」と述べている。

『浄土真宗辞典』(本願寺出版社)

なぜ親鸞聖人は、法然聖人のお言葉をとおして、阿弥陀仏の願いの疑いなく聞くことができただのでしょうか。親鸞聖人は、聴聞という言葉に「ゆるされてきく、信じてきく」と味わっておられます。「ゆるされて」とは、認められていく、排除されないということです。

阿弥陀仏の願いは、「一切の衆生を浄土に生まれさせ、さとり身へと成らす」という誓いです。これはみんなが救われるとともに、私がどのような姿、生き方をしようとも、仏さまは排除しないということです。そうしたお心をお聞かせいただいたときに、私の身に「そのはたらきに、そのまま従うほかない」という「信心」が起るのです。

法然聖人のもとで、さまざまな境遇の人びととともに阿弥陀仏の願いを聞いていかれた親鸞聖人は、いつまでも、どこまでもわが身を摂めとって決して捨てることのない、大きな慈悲の心に出遇われました。だからこそ、「聞く」ことがそのまま「信心」なのですと、お示しくださったのです。

浄土真宗のことば入門 『正信念仏偈』 その61

〔本文〕

建立無上殊勝願 超発希有大弘誓

〔書き下し文〕

無上殊勝の願を建立し、希有の大弘誓を超発せり。

(『浄土真宗聖典 註釈版』願浄土真実教行証文類行文類)

〔現代語訳〕

この上なくすぐれた願をおたてになり、世にもまれな大いなる誓いをおこされた。

(『浄土真宗聖典 願浄土真実教行証文類-現代語訳』)

第6願「設我得仏 国中人天 不得天眼
不至不見 百千億那由他 諸仏国者 不取
正覚」(令得天眼の願)

たとひわれ仏を得たらんに、国中の入天、天眼を得ずして、下百千億那由他の諸仏の国を見ざるに至らば、正覚をとらじ

(『願浄土真実教行証文類行文類 浄土真宗聖典註釈版』16ページ)

わたしが仏になるとき、わたしの国の天人や人々が天眼通を得ず、数限りない仏がたの国々を見とおすことができないようなら、わたしは決してさとりを開きません。

(『浄土三部経-現代語訳』〔本願寺出版社〕)

世尊よ。もしも、かのわたくしの仏国土に生まれた生ける者どもが皆、少なくとも百千億・百万の諸世界を見るだけの超人的な透視力(天眼通)を持っていないようであつたら、その間はわたくしは、〈この上ない正しい覚り〉を現に覚ることがありませんように。

(『浄土三部経(上)』中村元・早島鏡正・紀野一義訳注〔岩波文庫〕)

この願の〔天眼〕を文字通りに読めば、どうなるのか。それは「天・高い所から見る目」となります。低い目、表面的な物を見る目、近い周辺のことを見る目に対し、高い所から、全体が見る目、客観的に見る目を意味します。(中略)

宇宙飛行士は、実際に天から、見ることができた人です。ハワイ・コナ出身の、エリソン・オニヅカさんは、日曜学校・仏教青年会と仏教を聞き、大学で宇宙工学を学び、五千人の中から選ばれ、宇宙飛行士になった人です。スペースシャトルに乗り、実際に宇宙に飛ばれた所感を聞くと、「地球では人間が一番えらいと思うが、天から見れば、動物も人間も皆、一つ円い乗物・地球に乗った同じ生き物に見えてきます」「国境

など、人間が勝手に引いた線で、そのために戦争をするなど、馬鹿なことをしていると見える」「宇宙に行くと、仏さまの話が本当と判る」など発表されています。それは人間社会を離れて見る、客観的な視点です。仏教で言う《出離》になる目と言えましょう。

浅原才市さんは「わたしの喜び 虚空のごとし 虚空世界は ひろいひろい、虚空世界に住まわせてくださる お慈悲が 南無阿弥陀仏」と、「虚空」つまり「宇宙」、高い天に住む自分を「広い広い」と喜んでいきます。

『無量寿経』の終わりに阿難が無量寿仏を見る話が出ています。『観無量寿経』にも、韋提希夫人が諸仏の国を見る話があります。この仏の国を見る目は、五眼の中の「慧眼」でしょう。「見真、能く彼岸を度す」とあります。この「天眼」に通じる働きです。

『真仏土巻』の中に、『涅槃経』の引文として「見に、二種あり。一つには眼見、二つには聞見なり。一菩薩、もし一切衆生ことごとく仏性ありと聞けども、心に信を生ざれば、聞見と名づけず」とう箇所があります。いま〔天眼〕の働きを考えていますが、この「聞見」という言葉も、仏教的には大切な使い方と思います。

ボーイスカウトの創始者、ベーデンパウエル卿は「青少年よ、高い所に登れ、宗教的になれる」と注意しています。高い所に立てば、今まで自分が居た所が客観的に見えてきます。一種の「出離」であり、宗教的になれるわけです。

聖徳太子は「一度に八人の意見を聞かれた」と言いますが、それは、一つのことについて、八通りの視点を求められたという、天眼の姿勢を顕していると思います。ですから『十七条憲法』に「人みな心あり、各々、執るところあり」という高い視点を述べられています。独断という低い判断がいけないのは勿論ですが、少数の意見に偏ることなく、高い視点に立つ大事さを思います。

この願を聞くと、私どもの見方が、いかに低い所であつたのかと、自覚せしめられます。天眼とは、別にあるのではなく、別の人々の意見を聞くことだと知る次第です。

(『四十八願の浄土』波佐間正巳著〔探求社〕)

天眼通によっていまの自分の見方が自覚されるとき、天眼を与えていきたいという願いが救いとなっていきます。仏道を歩むとは、正しい見方を求めていきたいという方向性をいただきこの人生を歩むということです。

